

二〇二二年二月一九日

兄の後追ひてよちよち下萌ゆる  
踏青や飛鳥大仏訪ふ小径  
遠山の翠黛見ゆる春霞  
ふらここを漕ぐは生駒の山嵐  
庭椿剪る手に昨夜の雨雫  
籠り居も季節はめぐり木の芽立つ

二〇二二年二月一八日

水仙の揺れ通しなる川堤  
春一番高波被る烏帽子岩  
斑鳩の三山浮かぶ春田かな  
下町の湯屋の煙やおぼろ月  
ふんわりと山白変す春の雪

二〇二二年二月一七日

パパ起こすバレンタインの日曜日  
豆を煮る寒の戻りの家籠  
槌音のまだ鳴りやまぬ遅日かな  
鷹揚にゆれて明るき竹の秋  
父母眠る墓へ焼野の畦渡る  
奏楽者デビューー礼拝堂の春  
竹藪をニタ分けにして春疾風

二〇二二年二月一六日

厚き雲踏んまへて立つ春の虹  
しりとりりの帰路の母子に春夕焼

智恵子

ぼんこ

あひる

せいじ

董雨

凡士

あひる

智恵子

凡士

智恵子

みきお

なつき

こすもす

むべ

菜々

素秀

あひる

明日香

あひる

もとこ

わらべ歌聞きつ鍼灸院温し

春の雲追ひて立ち漕ぐ渡舟かな

二〇二二年二月一五日

芽柳の水へ触れむと枝垂れけり  
半眼に睨む仏の春埃  
被災地に悪夢ふたたび春寒し  
離れ住む嫁の気遣ひ愛のチョコ  
雪山の襷赤く染め朝日出づ

二〇二二年二月一四日

あたたかや万歩めざして河川敷  
平飼いの雄鶏屋根へ風光る  
玉垣に赤穂義士の名身にぞ入む  
咲き加減ぺちやくちやいふて梅見かな  
かくれんぼ影映したる春障子

二〇二二年二月一三日

雪解川飛驒五箇山を貫きて  
車椅子歩を伸ばしたる春堤  
森の木々網目を張りしごと芽吹く  
柵越しに甘える仔牛春の牧

満天

智恵子

たか子

ぼんこ

やよい

ぼんこ

隆松

凡士

素秀

菜々

たか子

もとこ

凡士

やよい

ぼんこ

なつき

なつき

なつき

毎日句会みのる選・二〇二二年二月二日